

2023年（令和5年）実施
愛甲商工会
地域経済動向調査報告書

目次

1. 調査の目的

2. 調査の目標

3. 調査書の決定

- ・ 調査対象
- ・ 調査期間
- ・ 調査実施と提出方法
- ・ 調査並びに集計にあたっての特記事項
- ・ 調査書の内容

4. 地域経済動向調査の全体集計とグラフ化

5. 売上高成長率と回答内容との関係性について

6. 調査結果の視覚化（見える化）：景気判断（個社経営概況）指数

- ・ 本調査における景気動向指数（個社経営概況指数）の定義
- ・ 全産業の DI 指数（全産業の景況天気図）
- ・ 業種別の DI 指数（業種別の景況天気図）

7. 調査に関するお問合せ先

1. 調査の目的

愛甲商工会管内の個社の経営状況や概況、さらには、その結果を集約した地域経済の概況や躍動度等を把握し、その結果を基にした「商工会の小規模事業者（個社）支援業務のあり方」を検討することである。

2. 調査の目標

調査の目標は主に以下の3点である。

- ・業種毎の個社の経営概況等を踏まえ、景況感を可能な限り「視覚的に」表現する。
- ・業種毎の個社の近未来における経営や運営姿勢を踏まえ、景況見通しを「視覚的に」表現する。
- ・得られた業種毎の地域景況感や、個社の経営や運営姿勢を踏まえ、商工会の小規模事業者（個社）支援事業に活用していく。

3. 調査書の決定

・調査対象

調査対象は愛甲商工会 管内の事業者すべて（個人事業も含む）である。

・調査期間

2023年（令和5年）8月1日（火）～9月20日（水）

・調査実施と提出方法

調査書を愛甲内の事業者へ郵送し、事業者は回答の上、同封の返信用封筒にて返送していただくことを原則とする。ただし、回収率を高めるため、愛甲商工会に直接持参、ファックス、メール、どの方法でも受付は可とした。

・調査並びに集計にあたっての特記事項

本調査におけるサービス業の対象は、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉サービス、学術研究・専門・技術サービス業、教育学習支援、運輸業、情報通信業、を含む。またその他には、製造業、卸売業、小売業、建設土木業、不動産業、サービス業、飲食業、農林水産業、に分類されないものを含む。

質問（9） 来年の売上高見通しは、当年の推移から判断すると、どのような予想でしょうか？当てはまるものを「○」で選んでください。

- 1) 良くなる 2) やや良くなる 3) 変わらない 4) やや悪くなる 5) 悪くなる

質問（10） 当年度は前年度に比べ雇用人数はどうでしたか？当てはまるものを「○」で選んでください。

- 1) 増えた 2) 変わらない 3) 減った

質問（11） 来年の雇用人数見通しは、当年の推移から判断すると、どのような予想でしょうか？当てはまるものを「○」で選んでください。

- 1) 積極的に増やす 2) 可能なら増やす 3) 変わらない 4) やや減らす
5) 大幅に減らす

質問（12） 当年度は前年度に比べ設備投資はどうでしたか？当てはまるものを「○」で選んでください。

- 1) 将来の売上確保のために積極的に投資した 2) 修繕や保守を目的に投資した
3) 特に投資していない

質問（13） 来年の設備投資見通しは、当年の推移から判断すると、どのような予想でしょうか？当てはまるものを「○」で選んでください。

- 1) 売上確保のために積極的に増やす 2) 修繕や保守を目的に増やす
3) 今のところ投資する予定は無い

4. 地域経済動向調査の全体集計とグラフ化

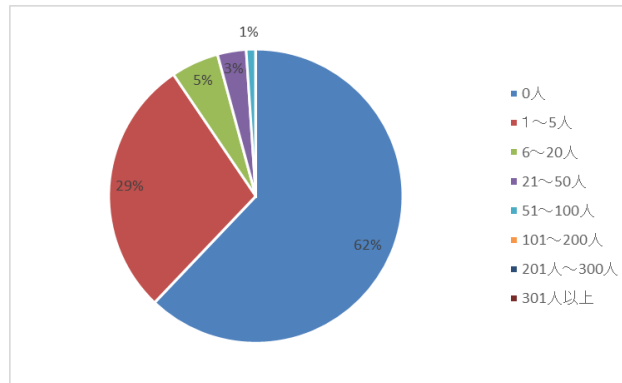
(1) 回答事業者の素性と業種構成比

業種名	有効回答者数	業種名	有効回答者数
製造業	19	サービス業	31
卸売業	0	飲食業	7
小売業	13	農林水産業	2
建設土木業	16	その他	2
不動産業	5	<u>合計</u>	<u>95</u>

(回答事業者数)

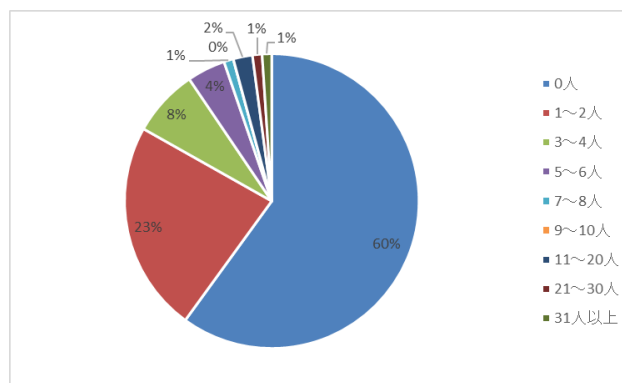
(2) 事業者の従業員の人数

*従業員：常時雇用の正規社員のこと。役員除く。個人事業の場合は、親族除く。パートやアルバイトは含まない

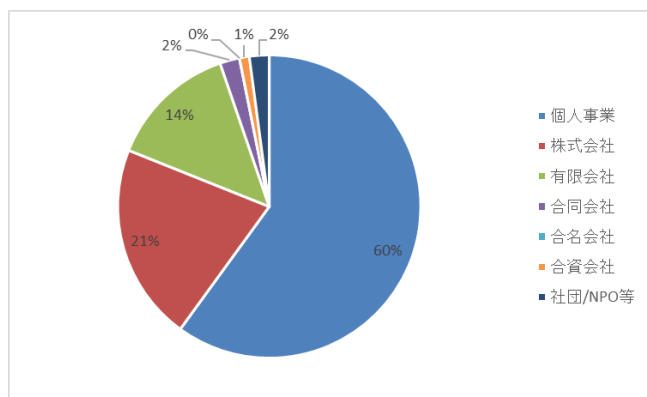


(3) パート・アルバイトの雇用人数

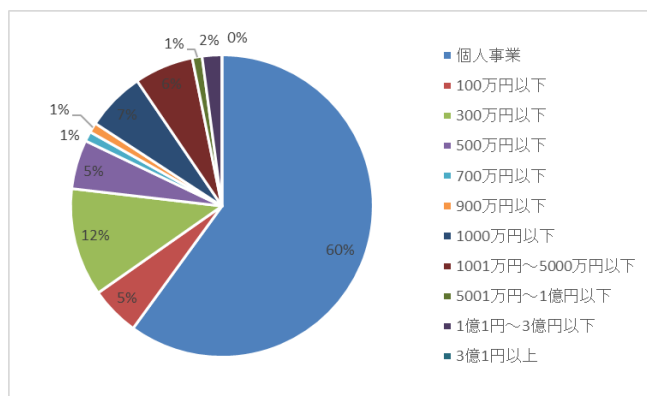
パート、アルバイト：時給を決め、時間管理で雇用している従業員



(4) 事業形態

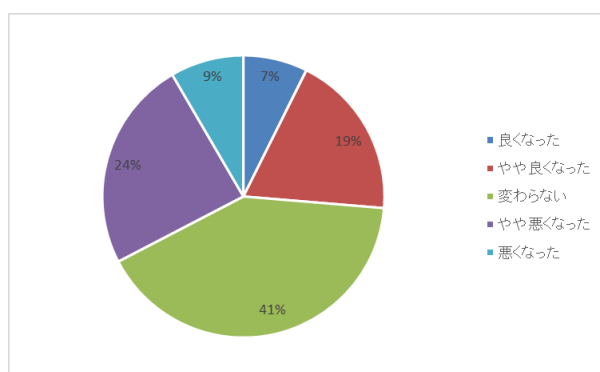


(5) 資本金の額



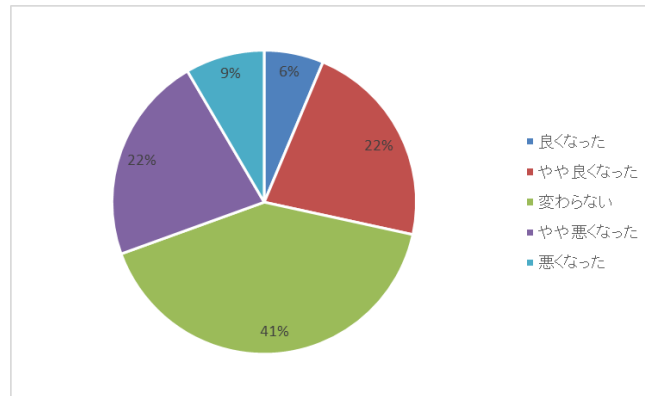
(6) 業績の結果の考察

令和5年の業績の結果の解釈(令和4年比) 業績：売上-費用=利益



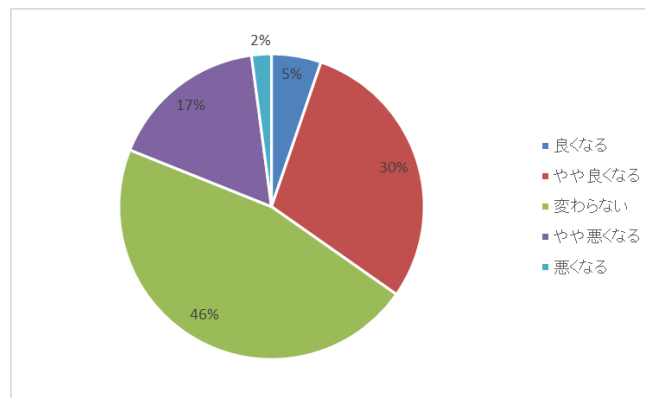
(7) 売上の結果の考察

令和5年の売上の結果の解釈 (令和4年比)



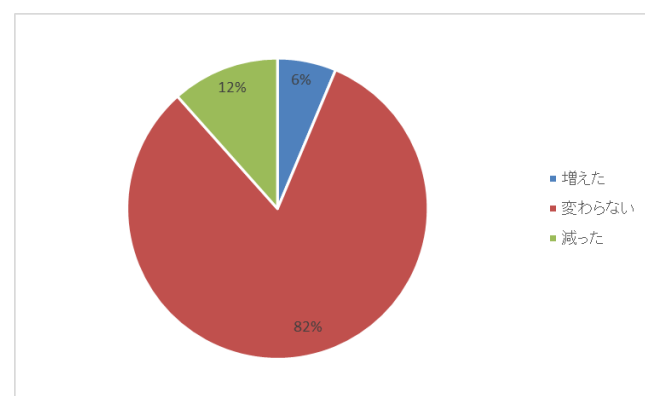
(8) 業績の見通し

令和6年の業績の見通し (令和5年比)



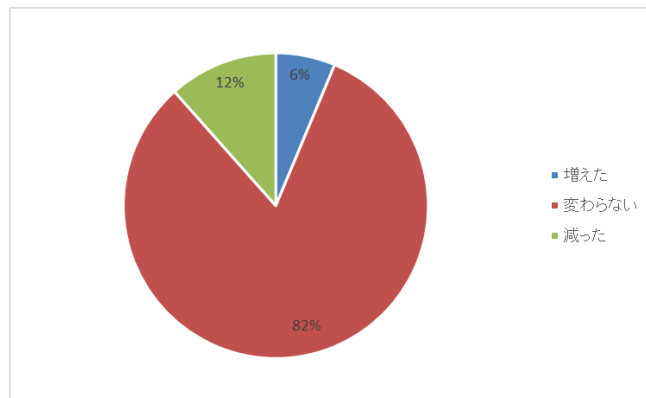
(9) 売上の見通し

令和6年の売上の見通し (令和5年比)



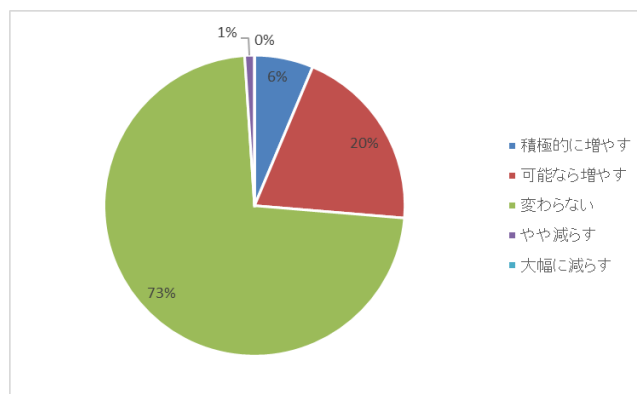
(10) 雇用の結果の考察

令和5年の雇用結果（雇用人数の増減）の解釈（令和4年比）



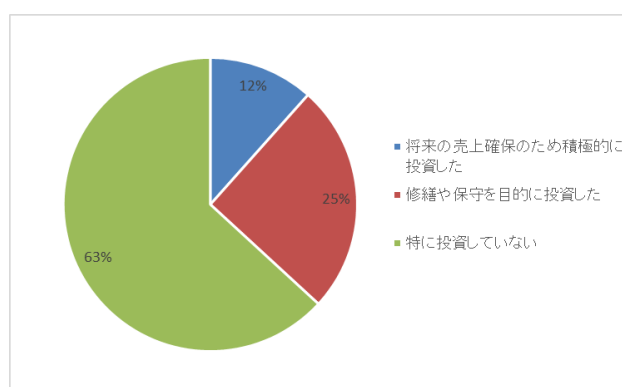
(11) 雇用の見通し

令和6年の雇用（雇用人数の増減）の見通し（令和5年比）



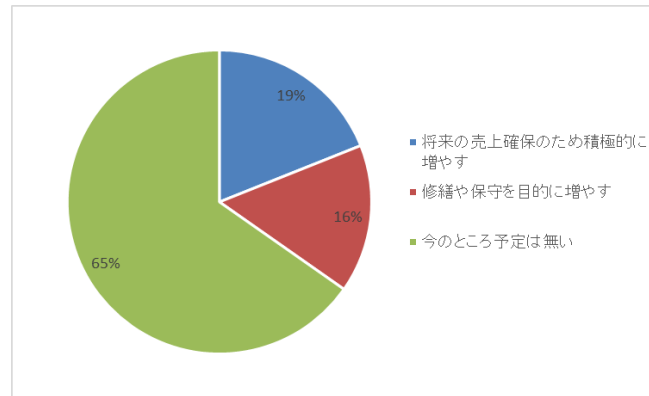
(12) 設備投資の結果の考察

令和5年の設備投資の結果の解釈（令和4年比）



(13) 設備投資の見通し

令和6年の設備投資の見通し（令和5年比）



5. 売上高成長率と回答内容との関係性について

本項では、調査報告書の回答の内容が「売上高成長率」に「どのような」影響があるのかを考察した。具体的には、質問（6）業績の実績、質問（7）売上高の実績、質問（8）業績の見通し、質問（9）売上高の見通し、質問（10）雇用人数の実績、質問（11）雇用人数の見通し、質問（12）設備投資の実績、質問（13）設備投資の見通し、を説明変数、売上高成長率を目的変数とし、回帰分析を行った。

対象事業数は22社であり、当該調査報告書の回答総数ならびに業種別の回答構成比を踏まえたものとした。なお、回帰分析における各設問の数値化は、5段階評価の場合、楽観的から悲観的の順に、5点、4点、3点、2点、1点とした。一部回答の選択肢が、3段階の場合があるが、質問（10）は、楽観的から悲観的の順に5点、2.5点、1点、質問（12）と質問（13）は、楽観的から悲観的の順に5点、3点、1点とした。

管理No.	売上高成長率	業績結果	売上結果	業績見通し	売上見通し	雇用人数結果	雇用人数見通し	設備投資結果	設備投資見通し
3	0.117	2.000	2.000	2.000	2.000	2.500	3.000	1.000	1.000
4	0.129	3.000	3.000	4.000	4.000	2.500	4.000	1.000	1.000
12	-0.569	3.000	3.000	3.000	3.000	1.000	3.000	1.000	1.000
24	-0.048	3.000	3.000	3.000	3.000	2.500	3.000	1.000	1.000
37	-0.010	3.000	3.000	3.000	4.000	2.500	3.000	5.000	2.500
38	-0.029	2.000	2.000	3.000	3.000	2.500	3.000	2.500	1.000
40	-0.444	4.000	4.000	4.000	4.000	2.500	2.000	2.500	1.000
43	-0.151	2.000	2.000	3.000	3.000	2.500	3.000	1.000	1.000
47	-0.355	3.000	3.000	2.000	3.000	2.500	3.000	2.500	1.000
50	-0.100	2.000	1.000	2.000	2.000	2.500	3.000	1.000	1.000
55	0.091	1.000	1.000	3.000	3.000	2.500	3.000	1.000	1.000
58	4.008	5.000	5.000	4.000	4.000	2.500	3.000	1.000	5.000
66	0.017	3.000	3.000	2.000	2.000	2.500	3.000	1.000	1.000
69	0.155	2.000	2.000	3.000	3.000	2.500	3.000	2.500	1.000
70	0.049	3.000	3.000	3.000	3.000	2.500	3.000	1.000	1.000
71	-0.033	3.000	3.000	2.000	2.000	2.500	3.000	2.500	1.000
73	0.333	2.000	2.000	3.000	3.000	2.500	3.000	1.000	1.000
76	-0.042	2.000	2.000	2.000	2.000	2.500	1.000	1.000	1.000
77	-0.036	3.000	3.000	5.000	4.000	2.500	3.000	1.000	1.000
93	0.142	4.000	2.000	3.000	3.000	1.000	5.000	2.500	5.000
99	0.050	2.000	2.000	3.000	3.000	2.500	3.000	5.000	1.000
102	0.091	3.000	2.000	3.000	3.000	2.500	4.000	1.000	1.000

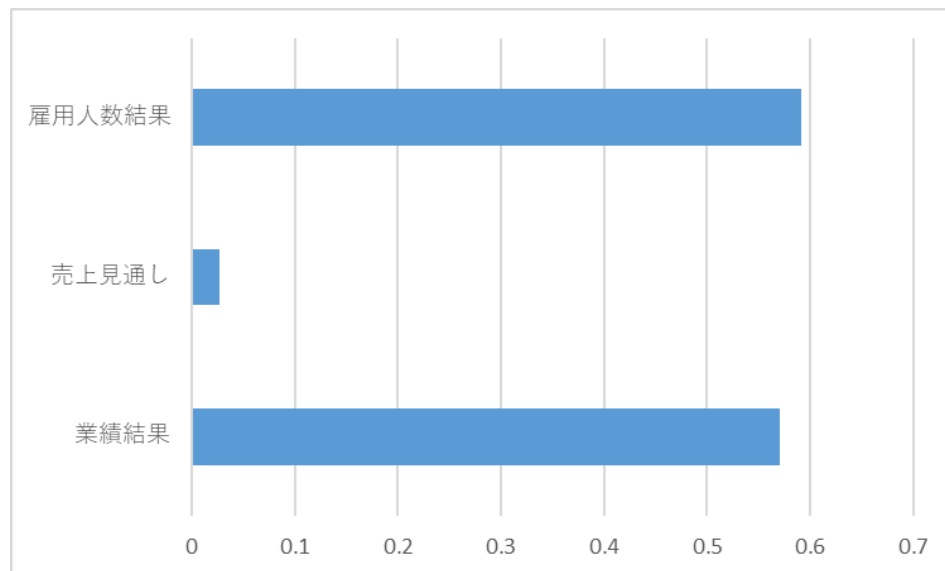
(回帰分析の結果)

重相関Rならびに説明選択基準が最大値の回帰分析結果を、下表のように採用した。

回帰統計								
重相関 R		0.981681839						
重決定 R2		0.326820125						
補正 R2		0.214623479						
標準誤差		0.784136654						
観測数		22						
分散分析表								
	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F			
回帰	3	5.373208382	1.791069461	2.912922419	0.062638736			
残差	18	11.06766527	0.614870293					
合計	21	16.44087365						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	0.319789906	1.302664426	-2.210692062	0.040241221	-5.61658631	-0.142993502	-5.61658631	-0.142993502
業績結果	0.56992196	0.231733602	2.459384202	0.024268114	0.083067728	1.056776191	0.083067728	1.056776191
売上見通し	0.026672178	0.284287171	0.093821251	0.926287612	-0.570593006	0.623937362	-0.570593006	0.623937362
雇用人数結果	0.591616242	0.409323151	1.445352504	0.165544604	-0.268339789	1.451572272	-0.268339789	1.451572272

(回帰分析の解釈)

上記回帰分析の影響度は、下記グラフのようになる。



回帰式は次のとおり(小数点3桁を四捨五入)である。

$$\begin{aligned}
 \text{売上高成長率} &= 0.03 \times \text{売上高の見通しの回答内容『質問(9)』} \\
 &+ 0.59 \times \text{雇用人数の結果の回答内容『質問(10)』} \\
 &+ 0.57 \times \text{業績結果の回答内容『質問(6)』} \\
 &+ 0.32 \text{ (切片)}
 \end{aligned}$$

なお、昨年の回帰式は、以下であった。

$$\begin{aligned}
 \text{売上高成長率} &= 0.29 \times \text{売上高の見通しの回答内容『質問(9)』} \\
 &+ 0.15 \times \text{雇用人数の結果の回答内容『質問(10)』}
 \end{aligned}$$

+ 0.04×業績結果の回答内容『質問(6)』

+ 0.11 (切片)

以上のことから、係数の絶対値の増減はあれど、取組の優先度は、質問(9)、質問(10)、質問(6)を信頼して良いという判断が採用できる。なお、質問(9)、質問(10)、質問(6)の解釈を深めると下表のようになる。






売上高の見通し 『質問(9)』	売上高成長率を高めていくための個社の支援にあつては、次年度の売上の刈り取りに向けて『今、どのような集客や販促策を実施すべきか』、あるいは『次年度、どのような集客や販促策を実施すべきか』について、個社が腑落ちするような助言が必要である。
雇用人数結果 『質問(10)』	売上高成長率を高めていくための個社の支援にあつては、集客や販促の手数や、業務効率(生産性)を高める為に、当年度の雇用を増やして行けるような助言が望まれる。
業績結果 『質問(6)』	売上高成長率を高めていくための個社の支援にあつては、当年度のコスト管理意識を持たせる助言が求められる。 * 影響度が売上高の実績で無い点に留意すると、業績結果の解釈は、コスト管理意識と分析できる。

6. 調査結果の視覚化（見える化）：景気判断（個社経営概況）指数

・本調査における景気動向指数（個社経営概況指数）の定義

本調査結果では、景気動向指数：ディフュージョンインデックス（略 DI）指数を採用し、地域経済の動向（個社経営概況）を見える化した。

具体的には、回答において「(やや) 良い」「(可能なら) 実施する」をDIでは強気（楽観的）（つまりプラスと表現）とし、「(やや) 悪い」「実施しない」をDIでは弱気（悲観的）（つまりマイナスと表現）とする。結果、景気動向指数は、強気、弱気の回答割合の差で示すことになる。なお、その割合の区分に応じて、天気図を採用し、さらに視覚的に認識しやすいように工夫している。

DI	天気図
30.1 以上	
10.1～30.0	
10.0～△10.0	
△10.1～△30.0	
△30.1 以下	


例えば、令和5年の売上高見通しが、以下のような回答の場合、経営者の令和2年の売上見通しは、強気（楽観的）であったことが視覚的にわかるようになる。



売上高 良い 50% 変わらない 30% 悪い 20%

(50% - 20% = 30%)







・全産業の DI 指数（全産業の景況天気図）

	業績		売上		設備投資	
	値	天気	値	天気	値	天気
令和 5 年結果	△7		△3		△26	
令和 6 年予想	16		△6		△30	

令和 3 年、令和 4 年調査時に比べ、売上の見通し以外は、全ての DI 数値が改善している。天気図では、傘が設備投資を除いて無くなっている。新型コロナウイルス感染症の影響による景況感が見通せない状況から、見通せる状況へと変化しつつあるようである。

しかしながら、設備投資意欲が低く、攻めの経営として売上を獲得する意識は改善の兆しは、まだまだ見られない。このような傾向が続くようであれば、次年度以降、売上や業績に「楽観論」が広がるのでは無いかと危惧している。

（令和 4 年実施時）



	業績		売上		設備投資	
	値	天気	値	天気	値	天気
令和 4 年結果	△18		△17		△4	
令和 5 年予想	12		14		△38	

（令和 3 年実施時）

	業績		売上		設備投資	
	値	天気	値	天気	値	天気
令和 3 年結果	△31		△36		△30	
令和 4 年予想	△ 9		△7		△40	

・業種別の DI 指数（業種別の景況天気図）






〈製造業〉

	業績		売上		設備投資	
	令和 5 年結果	△37		△17		△16
令和 6 年予想	20		11		△16	

令和 3 年、令和 4 年の調査時に比べ、悲観的な観測が広がっている。結果、天気図も、晴れ間が減り傘の出番が多くなっている。業績の悪化、売上の悪化が顕著で、その影響で、見通しがネガティブになっているようである。

円安傾向が続き、国内の製造業が世界での価格優位性を失う中、町内の製造業は下請、孫請け的側面があり、末端まで仕事が回りきるほどの量が無いのでは無いか等々、種々の外部環境の向かい風が、心配な状況である。


（令和 4 年実施時）

	業績		売上		設備投資	
	令和 4 年結果	△12		△11		66
令和 5 年予想	32		38		0	

（令和 3 年実施時）






	業績		売上		設備投資	
	令和 3 年結果	△21		△34		10
令和 4 年予想	△10		0		△10	

〈小売業〉






	業績		売上		設備投資	
	令和5年結果	△38		△31		△38
令和6年予想	16		16		△24	

令和4年に比べ、業績や売上、設備投資といった実績は、大きく後退した。しかしながら見通しは、大幅な改善が見られる。新型コロナウイルス感染症の影響が無くなり、顧客が戻ってきている実感はあるようで、このまま、改善する方向に推移してくれることを期待するばかりである。



(令和4年実施時)

	業績		売上		設備投資	
	令和4年結果	△29		△36		△14
令和5年予想	1		△6		△58	

(令和3年実施時)

	業績		売上		設備投資	
	令和3年結果	0		△7		△28
令和4年予想	△15		△22		△34	




〈建設土木業〉

	業績		売上		設備投資	
	令和5年結果	12		6		△26
令和6年予想	13		6		△26	






令和3年、令和4年に比べ、売上、業績、設備の全てにおいて楽観論が広がっている。これは全国版の経済動向調査（景況感）とも一致しており、全国的な傾向と歩調を合わせている結果になった。

*2022年以降、全国的には事業者向け（例：飲食店、美容室等々）の建設需要が増加している。また戸建ての老朽化を背景としたリフォーム需要が増加している。

（令和4年実施時）

	業績		売上		設備投資	
	令和4年結果	△15		△15		△38
令和5年予想	△8		0		△68	

（令和3年実施時）

	業績		売上		設備投資	
	令和3年結果	△23		△23		△30
令和4年予想	△29		△23		△18	

〈サービス業〉

	業績		売上		設備投資	
	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン
令和5年結果	17		14		△32	
令和6年予想	23		26		△28	

令和3年、令和4年の調査と比べて、業績、売上の全ての項目が改善した。しかしながら、設備投資意欲の後退が気掛かりである。一般的には設備投資意欲の減退は、次年度以降の業績や売上にマイナスの影響を及ぼすことが多いため、注視していきたい。

*2022年以降、全国的には、外出機会が増えたことで、その周辺サービスの需要性が高まっている。例えばレジャー、衣類関係、美容関係、自動車関係等々である。また、これらの分野では設備投資意欲も旺盛である。







(令和4年実施時)

	業績		売上		設備投資	
	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン
令和4年結果	△23		△26		△26	
令和5年予想	15		0		△26	

(令和3年実施時)

	業績		売上		設備投資	
	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン
令和3年結果	△38		△47		△62	
令和4年予想	△16		△18		△48	







〈飲食業〉

	業績		売上		設備投資	
令和5年結果	△1		57		△14	
令和6年予想	△15		15		100	







令和3年、令和4年の調査時に比べ、全ての項目で楽観的な観測になっている。飲食業は、概ねサービス業の動向と類似する傾向があることから、サービス業で楽観的な観測であれば、同調するものと思われる。

とは言え、特段、目立った観光ポイント等（キャンプや屋外バーベキュー除く）が存在しないため、域外からの顧客獲得には粘り強い継続性が求められる。一方、既存顧客の来店頻度の向上、客単価の向上といった目の前の取組の重要性も益々、必要である。

(令和4年実施時)

	業績		売上		設備投資	
令和4年結果	△33		1		0	
令和5年予想	△50		25		△100	

(令和3年実施時)

	業績		売上		設備投資	
令和3年結果	△76		△76		△26	
令和4年予想	25		25		△66	

〈卸売業〉

	業績	売上	設備投資
令和5年結果	DI算出に必要な個社数充足せず判断無し		
令和6年予想			

〈不動産業〉有効回答未充足につき判断無し

	業績	売上	設備投資
令和4年結果	DI算出に必要な個社数充足せず判断無し		
令和5年予想			

〈農林水産業〉

	業績	売上	設備投資
令和4年結果	DI算出に必要な個社数充足せず判断無し		
令和5年予想			

〈その他〉

	業績	売上	設備投資
令和4年結果	DI算出に必要な個社数充足せず判断無し		
令和5年予想			

7. 調査に関するお問合せ先

愛甲商工会 和田宛